

〈令和元年度 総会〉

開 催 挨 拶

環境システム計測制御学会 会長
京都大学大学院工学研究科 教授 清 水 芳 久



皆様、こんにちは。

東日本でも西日本でも強風や大雨などが続いております。琵琶湖では例年冬になると、酸素などを多く含んだ雪解け水など冷たい水が湖底に沈みこみ、湖底にあった水が表層に押し上げられる琵琶湖の全層循環、一般的に琵琶湖の深呼吸と呼んでいますが、それが今年には発生しませんでした。今までに一番遅い深呼吸は、平成19(2007)年に3月19日と記録されていますが、今年はその頃から毎日、滋賀県がこの深呼吸確認のため琵琶湖北湖まで調査に出ていましたが、4月になってもこの深呼吸が確認できず、今年には深呼吸が発生しなかった、という判断がなされ、これから琵琶湖がどうなっていくか非常に心配な状況です。

我々専門家も長年、琵琶湖の水質保全のために様々な努力をしてきましたが、気候変動の影響で、大きな環境の変化が起こってしまうことを痛感しています。

また京都では、この5月に30度以上になる真夏日が8日くらいになるだろうと、これも観測史上初のことと聞いています。例年はこの時期になりますとツツジが終わりかけ、サツキが咲き始めるのですが、今年は景色を見ていると、場所によってはこのツツジとサツキが同時に咲いています。これも気候変動の影響のひとつだと感じています。

先ほどEICAの立ち上げの時から参加しておられる会員の方とお話をしまして、三十数年前に下呂温泉で、なんとかこの研究会を学会にしようという話になっていたそうです。当時の関係者の方々のおかげもあり、EICAは来年、学会創設30年を迎えます。皆様のご支援とご協力の下で、何とかこれまで継続してきました。先ほどの琵琶湖や気候変動の話題からも、当時からは世の中が色々と変わってきている中で、継続していくことの大切さを踏まえながら、一方でEICAはこれからも前を向いていろんなことに挑戦していきたいと思っております。EICAでは総会、研究

発表会、学会誌の発行を継続した活動の大きな柱とし、今年度は新たに来年の30周年に向けて、記念誌の発行や記念シンポジウムなどの新企画などを計画しております。こちらにつきましても皆様のご協力をお願いいたします。

また若手育成、産官学のネットワーク構築のために、EICAでは、未来プロジェクト、新・未来プロジェクトを実施し、そしてこれらの卒業生が未来企画会議を立ち上げ、これまで活動してきました。昨年度の一年間は、今後のさらなる発展と活発な活動のための議論を重ねてきて、今年度新たにスタートすることになりました。こちらも皆様のご協力をお願いします。

本日のご講演にもございますが、来年は日本でオリンピックが開催され、今年には令和という新しい元号が制定され、新しい時代がやってきます。

EICAは小さい規模ではありますが、ネットワークや知識の共有を図ることを考えますと、皆様からのご支援、ご協力が感じられやすい、非常にいい状況にあると思います。

令和という新しい時代になり、今年度も一年、笑顔でこの学会が活動できるよう努力していきたいと思っております。これからの総会で様々な議案を提出させていただきます。充分ご審議いただき、皆様のご承諾をいただければと思います。

本日はご多用のところ、ご参集を賜りありがとうございます。